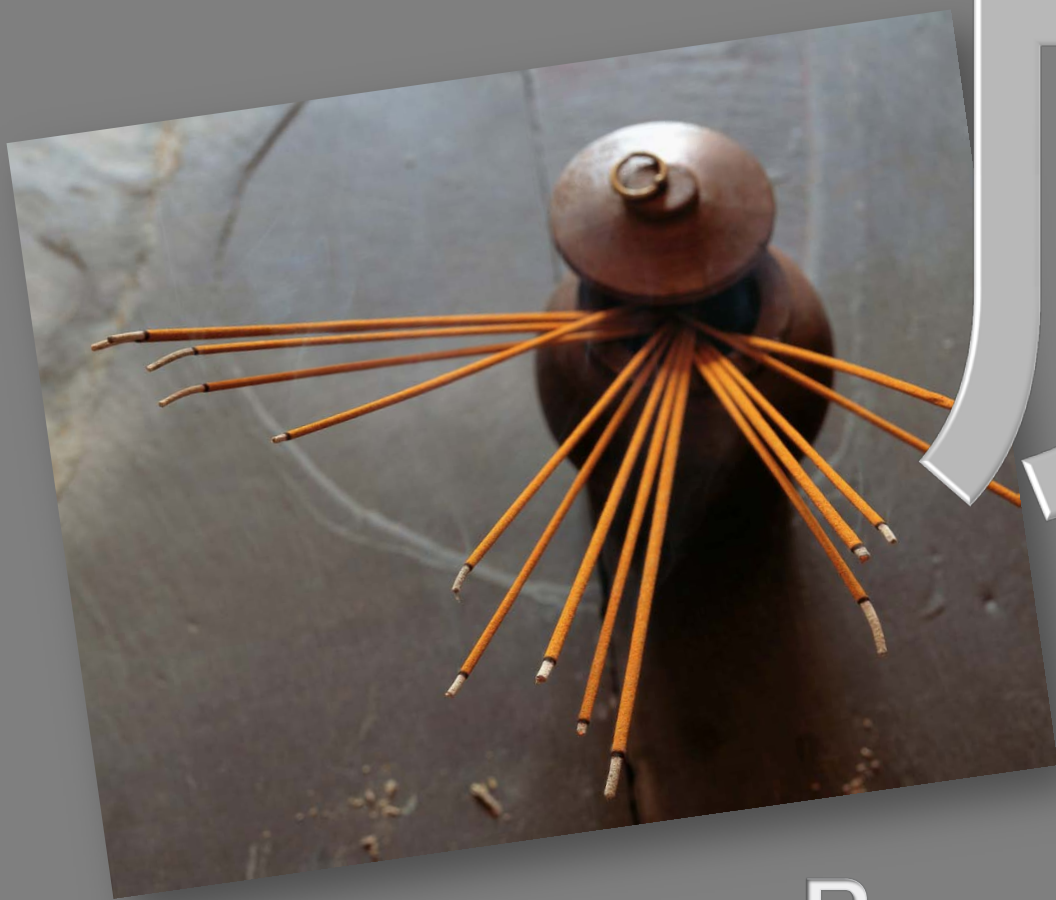




灰

Bブロック全作品と講評

www.columnland.net

灰

今日は父の葬式だった

たくさん思い出が頭の中を駆けめぐった

キャッチボール

遊園地

プール

授業参観

男手ひとつで僕を育ててくれた

僕の心を支えてくれた

そんな父が灰になった

僕の心は、からになった

灰色人種

「灰」を広辞苑で引いてみると、「物の焼け尽した後に残る粉状の物質。」とある。物を燃やした時にはエネルギーが生まれることから、エントロピーは灰の状態の時、高くなることが分かる。灰から物を作るには、逆にある程度のエネルギーが必要になる。それは土壌に灰と種を撒き、水を与え、育てるということであろう。

灰色の場合もまた同じである。灰色は黒と白を混ぜればできるが、灰色から黒と白を抽出することはむずかしい。

日本人はしばしば、「物をはつきりと言わない」とか、「断ることをしない」と言われる。肌の色とは関係なく、日本人の言語の質は、白でも黒でもない、灰色なのではないかと考えられる。

先ほども述べたように、灰はエネルギーに乏しく、情報を伝達するにはエネルギーが必要であることから、日本語には情報が少ない。

かといって、生活に支障があるかという、そうでもない。それは、私たちが、少ない情報からエネルギーを使って、情報を増幅させるという変換をしているにほかならないからである。

これがまさに

「灰コンテキスト」

である。

コーチ、ごめんなさい。

By 佐藤、高橋

サッカーのクラブチームの練習の後、
コーチに以前から気になっていた質問を試みた。
「コーチはどうしてコーチをやってるんですか？」
コーチが答える。

「そうだな、たまには俺の人生について語ってやろうか。」

みんなが耳を傾ける。

このコーチは格言めいた良いことを話すのだ。
このチームの名物といってもいいだろう。

「俺のサッカー人生は焼き芋のようだった。」

いつものように初めは意味がわからない。

コーチが説明をする。

「チームにはいろいろな人が集まる。

上手い人だったり、あまり上手くない人だったり。

焼き芋でいうところの、芋と落ち葉だな。

どんなチームも必ず芋と落ち葉で構成されるんだ。

俺はその落ち葉のほうだった。」

コーチはそこで一度言葉を切る。

監督がうなずいて先を促す。

「挫折してチームを辞めてどこかに飛んでいってしまう落ち葉達もいたけれど、俺は試合に出れなくても決してやめようとは思わなかった。

芋のおいしさを競い合うのがサッカーなんだが、
焼き芋を作るのには芋だけじゃ駄目だからだ。

落ち葉が燃えた灰があるからこそ、それに囲まれた芋がおいしく焼けていくのさ。

高校最後の大会で関東一になった時思ったね、
『これが俺らの焼き芋だ！』って。

まっ、その時の感動が忘れられなかった俺はこうして若い芋たちを育てる灰になってるわけさ。」

コーチは空を仰いでキメる。

監督が親指を立ててウインクを送っている。

「これから言うことは必ず覚えていてくれ。
それさえ覚えてくれれば俺の過去の話なんて忘れてくれてかまわない。

芋自体のおいしさも重要だが、灰によってどう焼かれるかで焼きいものおいしさは大きく変わる。
自分が芋だと思うやつは、周りの落ち葉をもっと大切に思え。

自分が落ち葉だと思うやつは、自分が灰になってどう焼いていくかが芋のおいしさにかかわっていることを知ってくれ。

…今日の話は以上だ！」

なかなか考えさせられる話だった。

そのとき佐藤が手をあげた。

「コーチ！時代は石焼だと思います。俺は石になります。」

そのギャグにみんなが乗っかる。

「俺も俺も。石のほうがカッコいいもんな。」

「じゃあ灰いらねえんじゃね？コーチ必要ないじゃん。」

「監督。石っぽい人を雇ってください。灰はクビで。」

ぎやはははは。

コーチは涙目になっていた。

監督は爆笑していた。

そんな中、コーチに最年少の学年の高橋が近づく。
その顔は、どこか晴れ晴れとしている。

「どうすればチームが強くなるかわかったよ！」
周りが静まる。

「おいし^{上手い}そうな外国産^{外人}の焼き芋^{選手}を、買^{ハンドハンティング}う！」
再びみんな爆笑。

コーチは涙目になっていた。
監督は腹を抱えてうずくまっていた。

以来、コーチは二度とこの話をしなくなった。

シンデレラ

漢詩・VER

清楚端丽灰姑娘
继母继姐嫉妒她
一天王子开舞会
不知裙子放在哪
善良魔女使魔术
闪光一闪变公主
南瓜马车奔路跑
美丽男女跳舞蹈
半夜十二时刻到
水晶鞋子留在道
王子忠臣翻天找
终于发现女主角
王子求婚她接受
幸福一生圆满结

B-5 今日も彼女は、お城の窓から街を眺める。彼女の目には、小さな女の子と一緒に花屋を営んでいる女の姿が映っていた。

ある紙芝居でのお話

もう何十年も前の話になります。ある屋敷にとっても美しく、やさしい娘がいました。でも悲しいことに、娘のお母さんは早くに亡くなってしまいました。そこでお父さんが二度目の結婚をして新しいお母さんと二人のお姉さんができました。ところがこの人たちは大変な意地悪だったのです。娘は、お母さんと二人のお姉さんにつらい仕事を押し付けられ、ぼろぼろの服を着て、お風呂に入ることも許されませんでした。娘の頭にはいつもかまどの灰が付いていたので、娘はシンデレラと呼ばれました。

ですがシンデレラはくじけませんでした。なぜなら隣の屋敷にも同じようにいじめられている娘がいたからです。二人は時々会っては、お互いを励ましあいました。

ある日、お城の王子様が舞踏会を開くことになり、シンデレラの屋敷にも招待状が届きました。しかし、お母さんと二人のお姉さんはシンデレラを家に残し、三人だけで舞踏会に出かけました。シンデレラが悲しくて泣いていると、目の前に妖精のおばあさんが現れました。おばあさんはシンデレラにドレスを与え、カボチャの馬車に乗せてくれました。ふと、シンデレラの頭に隣の屋敷の娘のことが思い浮かびました。

「……きつとあの子も舞踏会に行けたわ。」

シンデレラはそう思い、馬車を走らせました。

お城の大広間に着いたシンデレラは隣の屋敷の娘を探しましたが、どこにもいませんでした。あたりをうろうろしていると、なんと王子様が話しかけてきました。

「私と一緒に踊りませんか。」

シンデレラは嬉しさのあまり隣の屋敷の娘のことなど忘れて王子様と踊りました。

その後シンデレラは、おばあさんの魔法が切れる十二時にお城を出ますが、翌日、その時に落としたガラスの靴のおかげで、王子様と再会し結婚することができました。

幸せな暮らしを手に入れたシンデレラでしたが、一つ

気がかりなことがありました。隣の屋敷の娘です。そこで、シンデレラはこっそりと娘のことを見に行きました。娘は相変わらず苛めにあっているようでした。娘が気になったシンデレラは何日も娘のことを見に行きました。

ある日シンデレラが娘を見に行くと、どうやら屋敷にはいないようでした。近くの森を探しに行くと、そこには娘と一人の男がいました。

「駆け落ちしよう。」

男はそう言って、娘を連れてどこかへ行ってしまうしました。その日以来、娘は屋敷に戻って来ませんでした。

シンデレラがお城に住んで十年が経ちました。シンデレラはふと思いました。確かに私は何不自由のない生活を手に入れた……。でも私は何かをしただろうか、と。事実、シンデレラは何もしていません。周りの皆がシンデレラを助けてくれただけです。

窓の外を覗くと小さい女の子と花屋を営んでいる女の子が見えました。シンデレラが、私も花屋をやりたいと思っていると、その女の子と目が合いました。女の子はにっこりと笑いました。その時、シンデレラは気づいてしまいました。その女の子が、隣の屋敷の娘であることに。なんと娘はあの後、あの男と結婚し、娘を産み、自分の力で花屋を営むようになっていたのです。

シンデレラは何もしてこなかった自分の人生を後悔しました。するとそこに、あの時のおばあさんが現れました。

「まだ諦めるのは早いでしょう。」

その言葉を聞いたシンデレラはその夜、お城を出て旅立って行きました。 おしまい。

* * *

「ねえねえ。この後シンデレラはどこに行くの？」

紙芝居を片づけていたおばあさんは、子供たちをあやしなから言いました。

「自分の力で生きることの大切さを伝えるために、世界中を旅するのさ。今日も、明日もね。」

灰の愚痴

灰って良いイメージないよね。

燃えカスとか残骸みたいな感じで
色にしてもネズミ色とか言われて
さんざんだよ。

白でも黒でもなく

どっち付かずみたいに言われるし
虹の七色には

仲間にいれてもらえない。

空が灰色ならどんよりされるよ。

はいはいって思うだろうけど

Ash and snow

雪の降りしきる崖のふちに彼女は立っていた

真白いワンピースに身を包み

胸に愛する男を抱いて

眼前の海を潤んだ瞳で見つめていた

彼女を抱いたたくましい腕も

彼女を撫でた優しい手のひらも

全ては彼女の抱えている小さな壺の中にあつた

雪の降りしきる崖のふちに彼女は立っていた

彼女の白く細い指が壺の蓋を開いていく

雪に混じり彼の残骸がいくらか飛んだ

海は何も語らず

ただ落ちていく白をうけとめるだけだった

燃え尽きて何か残るなら
もう一度だけ挑んでみよう
もう一度だけ輝いてみよう
燻ぶっていた炎がつぶやく

線香花火が閃光放つ

燃え尽きて何か残るなら
もう一度だけ挑んでみよう
もう一度だけ輝いてみよう
燻ぶっていた私がつぶやく

閃光花火

葛藤

健介のやつ…俺のことバカにしやがって…

別にてりやきのマヨネーズ抜きでもいいじゃねえかよ…

(じゃああいつには返しじてやろうぜ)

気がつくとも目の前に悪そうな俺がいた。なんか黒い悪魔っぽいやつだ。でも大きさは手のひらサイズだ。しかし、そんなこと今の俺には関係ない。とにかく、今の俺は復讐という名の炎に包まれているのだ。

(ダメだよ、復讐なんてー落ち着いてー怒るようなことじゃないよ)

今度はかなり良いやつそうな俺が現れた。白い天使みたいなやつだ。こいつに言われて落ち着いて考えてみると、確かに俺が健介に言われたことはそんなに怒るようなことではない。

(むかつくんだろーぶん殴っちまえよ)

(ダメだよ、殴るなんてー痛いじゃんか！)

俺の心は揺れていた。すると、灰色の特に特徴のない俺が現れた。

(てか、てりやきのマヨネーズ抜きとか…笑)

その瞬間、俺の怒りはこいつに向けられた。気がつくとも、俺の拳はこいつの顔面にクリーンヒットしていた。黒い俺と白い俺は啞然としていた。まあ、スッキリしたし、健介には何の害もなかったからよかっただろう。

なんかお腹空いたし帰りにチーズ抜きチーズバーガーでも食べるか…

(…それただのハンバーガーじゃん…)

放課後の理科室からグラウンドを眺める

白球が飛び交い

齒切れのよい掛け声が交じり合う

班の加瀬君や遠藤君も

そろそろあの中にいるころだろうが

とくに掃除は終わっているのに

いまだに箒をもてあますあたし

この後の予定は

いつもながら未定だ

スポーツできる人ってかっこいいよね

楽器弾ける人ってかっこいいよね

勉強できる人ってかっこいいよね

空しく呟いてみる

あたしの取り柄ってなんだろう

そろそろ夏の大会だっけ

みんなきらきら輝いてみえる

命が燃えている、のかもしれない

ふとおもう

完全燃焼って素敵だ

あたしは、

あたしは火、ついているのだろうが

返事ができない自分に苦笑う

苦笑いなのか、いや嘲笑いなのかも

燃えてたとしても

不完全燃焼で灰まみれだったりして

ふとわがままに開き直ってみる

何も

完全燃焼じゃなくなっちゃっていいじゃあないか

頭のとっぺんから足の先まで

燃え尽きなくなっちゃっていいじゃあないか

自分のペースで

自分の時間

自分の救しさで燃えりゃいいじゃないか

ははは

これを負け犬の遠吠えって言うのだろうが

最近言い訳ばかりつぶやくあたし

カキーン

完全燃焼人がボールを打った音が

窓から飛び込んできた

さすがに自分に嫌気がさし

箒を片付けることにする

帰宅部は今日何の活動をしようかなあ

そのとき

小さな四角い箱が視界に入る

あ

勝手に仲間を見つけた気分になった

彼らもまだ燃えるタイミングを

伺っているようだ

少し元気がでた、かもしれない

マッチの人生は

完全燃焼なのだろうが。

灰

の

中

から

立ち

上

がり

死ねない苦しみを

知られることなく

徒に輪廻するその命

燃

え

尽

ぎて

また

死

に

帰

す。



コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	——そんな、ある夏の夕方	3 pt	9 位	1 sp
		空と雷と空気と。どの連も三点セットでまとめた、とても形の整ったポエム表紙です。 とくに空気の三変化（へんげ）が実感こもって、うんそんな感じだよねと伝わってきました。 特別賞：よくまとまってる賞（見た目がすごいきれい。表紙にふさわしい。） イチオシフレーズ：「——そんな、ある夏の夕方」×2		
A02	夏の思い出	3 pt	9 位	1 sp
		見送られて灰になる。このコンセプトがとても多かった今回ですが、本作品は「悲しみ」でなく「自然」なことというスタンスでまとめたことで、筋の通った主張を残します。このリアリティ、たぶん実体験なのでしょうね。 特に自分自身の死生観の出発点という位置づけが、くさびのように効いて好印象。 特別賞：フツーで賞（ふつうに良かった。）		
A03	日常のこと	16 pt	2 位	0 sp
		日常の彩りをすべてモノトーンに置き換えてみると—— 表現の実験として言葉の力を知ることになり、思考の実験として色覚のない世界を映像的に想像することになり。 とてもユニークな狙いがあざやかに成功していました。この良さをしっかり受けとってシルバー・メダルまで押し上げた読み巧者のフロアもエライ！おめでとう!! イチオシフレーズ：「カラフル」		
A04	自白剤	12 pt	3 位	0 sp
		シンプルな人間関係で、コントのようにすっきりオチ。 なるほどたしかに解決してみれば、自白剤の大手柄ですね、ナットク！ ムダのない展開でおもしろさアピール、みごとブロンズ・メダルでした、おめでとう！		
A05	ガンジス川	5 pt	6 位	0 sp
		映像とともに流れてくるナレーションのような、落ち着いた語りに惹かれます。 説明的になりすぎずに、最小限の情報をひとつひとつていねいにカメラで映し出しながら提供していく。とてもいいバランス感覚でした。 イチオシフレーズ：「すべてを流し続けながらもすべてを受け止め」		
		9 pt	5 位	0 sp

A06	(無題) 宇宙船	SFって設定説明でいっぱいいっぱいになってしまいがちなのですが、これはすばらしい。ちゃんと母さんドラマがラストにあって、しかもいいフレーズで感動を届けてくれます。 今とは違う未来。何が違ってしまったのか。知識の継承はこんなにも危うくなってしまう。ドラマのなかで伝えきって、グレートでした。 イチオシフレーズ：「灰色ってねずみ色ともいうらしいよ。」		
A07	週刊自分より抜粋	2 pt	11 位	0 sp
		ていねいな観察でこまやかな描写。ラストにちょっと興奮のお茶目ぶりも楽しい。 好感度大な率直トークでした。 エッセイ書くなら、こんなふうに。		
A08	灰色の死体	1 pt	12 位	0 sp
		実験マウス、でしょうか。 「殺すのです」のリフレインが、ひたひたと沁みてきて、自らの内なる恐れと戦いつつ殺し続ける業（ごう）のような凄みが伝わってきました。 その刺さるようなインパクトが読み手に深い印象を残して、今週のイチオシフレーズ大賞です。おめでとう！ イチオシフレーズ：「私は殺すのです」×3		
A09	灰婆	20 pt	1 位	1 sp
		妖怪さんの真の意図。助けてくれるつもりだったんかい！ そんなスレ違いが、ユーモラスな仕上がりになりました。 やりましたね、ついに待望の首位!! 涙で霞む壇上…… 作者さんのあと2回に期待です。おめでとうゴールド・メダル!!! 特別賞：深いで賞（深いから） イチオシフレーズ：「不思議と痛くはなかった」		
A10	あのボードゲームに対する不満	5 pt	6 位	8 sp
		オセロ。負けそうだから八つ当たり？なんて盤面見て考えたり。 いろいろ想像がふくらむ楽しい作りです。特別賞をさらいまくった上に、イチオシフレーズ大賞までゲットしました。おめでとう!! 特別賞：デザイン賞（デザインが良かった。） 白と黒で賞（オセロでこの状況はあり？（笑）） レイアウト賞（オセロの目が灰色もいいかも。） 白黒つけま賞（日本人は灰色な人が多すぎです。） レイアウト賞（斬新なレイアウトですね）ズレを直しま賞（オセロズレとる。） カドを取られちゃったで賞（黒にカドを取られちゃったから）ギャップ萌え賞（お察してください） イチオシフレーズ：「世の中、白黒つけられることばかりじゃないと思う…」×3		
	(無題) 好きな	10 pt	4 位	0 sp
		焼畑に花咲じいさんにコナン君。次から次へと繰り出す灰色礼賛トークが、論理性はアヤしいけれど、なんだか説得的でした。		

A11	色は	ぎっしりになりがちな正統派論説に、ちょっと変化を加えた技も◎。 イチオシフレーズ：「もちろん～ください」「灰原哀」
A12	輪廻	4 pt8 位4 sp きれいなレイアウトの裏表紙です。 ぐるぐる回るだけでなく、そこから抜け出したいんだ！というささやかなベクトルを提示したところが新視点でナイス。特別賞をたくさんいただきました。 特別賞：レイアウト賞（レイアウトがよい）レイアウト賞（レイアウト及び中二病）輪廻転賞（思いつき。）レイアウト賞（素晴らしいレイアウトです！） イチオシフレーズ：「不死鳥（フェニックス）」

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
B01	灰	2 pt10 位0 sp 灰になり、からになる。 シンプルなつくりで喪失感がすうっと伝わってくる今週の表紙でした。 もう少し亡き人の姿について具体的な描写があると、より読者を引き込めたのでは。		
B02	灰色人種	4 pt7 位0 sp ハイコンテキスト、そうですか。 ダジャレのような深いような。 エントロピーから堂々として、論理的と見せかけつつ飛躍しまくり、読み手を煙に巻く愉快的な科学トークでした。 よい子は真似しないように!? イチオシフレーズ：「灰コンテキスト」×2		
B03	コーチ、ごめんなさい。	4 pt7 位0 sp むむ、これは実話のお詫び状か？と思わせる細部のリアリティでした。 しみじみコーチ→時代は石焼き→外国産 きれいな構成のナイス三段オチ！ イチオシフレーズ：「おいしそうな（上手い）外国産の（外人選手）焼き芋を買う（ヘッドハンティング）。」×2		
B04	シンデレラ 漢詩.VER	0 pt12 位11 sp やらかすぞ、と宣言しておられた作者さん、あざやかな仕掛けです。 ときどきぽこぼこ入る知らない字を「麗」かな「開」かな、などと想像して読むのも楽しい。「幸福一生円満結」。おしあわせに。 結果もスゴかったですね。ゼロポイント+特別賞の嵐、なんと11個も。ある意味おいしい今週いちばんの話題作でした。おつかれ～！ 特別賞：解説不可賞（白文は読めません）分からないで賞（努力を感じた。読めない。一番特徴的だった。）灰姑娘で賞（漢詩なのにシンデレラだから。）返り点欲しかったで賞（返り点欲しかった）韻を踏みま賞（韻を踏んで欲しかった）広東賞（読む気が起きないから）乙賞（がんばったので、お疲れということで）李賞（李君→		

		ご本人所属班から) 韻を踏んでないで賞(頑張ったから。) 音読してほしいで賞(よめないから)?是中国人?(普通に凄い)
B05	ある紙芝居でのお話	15 pt2 位0 sp シンデレラ 自立ヴァージョン。 なるほど紙芝居屋さんになったのですか。その決意を促した花屋さんのエピソードがよく効いています。 でも、捨てられちゃった王子さま、かわいそうだなあ。 前座の李君を蹴散らして、もとい、李君に前座で助けてもらってのシルバー・メダルでした、おめでとう!!
B06	灰の愚痴	2 pt10 位0 sp 愚痴になっちゃったなあ、どよーん、という灰の気分を「はいはい」と軽く受けたラストになごみました。そんな変化の付け方がうまいです。 イチオシフレーズ:「はいはいって思うだろうけど」×3
B07	# 8 0 8 0 8 0	3 pt9 位1 sp たしかにモノクロの写真や映像の主役は黒や白より、むしろ灰色。 その明度だけで、いろんな意味を読みとろうとしていたのです。変化球アングルでびしっとポイントを突いていただきました。 特別賞:すごくアバウト賞(決め方もアバウトでした。)
B08	Ash and snow	14 pt3 位0 sp 最後に落ちていった白は、彼か、はたまた彼女もろともか。 どちらとも取れそうなラストシーンに至るまで、選び抜かれたフレーズで組み立てられるモノトーンの、けれど激しい光景に釘付けでした。ブラボー、ブロンズ・メダル!
B09	閃光花火	9 pt5 位0 sp 線香→閃光。ちょっとした言い換え。それだけで儚いちよろちよろ花火が、壮麗なる尺玉花火へと大変身。 ことばマジックですね。どーんとあざやかでした。
B10	葛藤	5 pt6 位0 sp 日常の小さな苛立ち。手のひらサイズという表現がいいなあ。 灰色の客観俺にぶつけることで解消という展開が、コミカルでナイス。自分自分とコッチコチに固まるのでなく、自分にちょっとツッコンでみる。なかなかに応用範囲の広そうな解決法です。 おなかのすく時間帯にじょうずに食欲も誘って、今週のイチオシフレーズ大賞ゲットです。おめでとう! イチオシフレーズ:「てか、てりやきのマヨネーズ抜きとか・・・笑」×4 「チーズ抜きチーズバーガー」
B11	5 の輝き	10 pt4 位0 sp なつかしの高校時代。放課後の物思い。リアルに伝わってきます。 完全燃焼じゃなくたって、いいじゃない! の開き直りから、視線の先にマッチ箱、という心の動きがとても自然に描き出されて、読者も共感を寄せやすい展開でした。 イチオシフレーズ:「完全燃焼人」「自分のペースで自分の時間 自分の激しさで燃えりゃあいいじゃないか」「5 の輝き」
		22 pt1 位3 sp

B12

PHOENIX

これはもうグラフィック・アートの世界ですね。
フレーズの意味と、そのカタチがびたりと一致しています。あざやかな技巧で魅了する今週の裏表紙でした。
おめでとう、不死鳥の輝きのゴールド・メダル!!
特別賞：レイアウト賞（レイアウト頑張ってる!） 不死
賞（レイアウトがすごいし、作り方がわからないか
ら。） 作者は燃え尽きた…真っ白にな!!賞（レイアウト
努力賞 作者乙!）